

【評価実施概要】

事業所番号	2870901879		
法人名	株式会社 ユーサイド		
事業所名	グループホームフレイグ甲子園		
所在地	〒663-8184 兵庫県西宮市鳴尾町2-25-22 (電話) 0798-41-6140		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	〒666-0016 兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2007年6月27日	評価確定日	2007年7月23日

【情報提供票より】 (平成19年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	31 人	常勤 23人, 非常勤 8人, 常勤換算 28人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての 1~3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	77,000~80,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(6月4日)

利用者人数	27名	男性	3名	女性	24名	
要介護1		4名	要介護2		9名	
要介護3		5名	要介護4		7名	
要介護5		2名	要支援2		0名	
年齢	平均	83歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	志水医院、松尾外科、後藤泌尿器科、桜橋渡辺病院、柳澤クリニック、あだち歯
---------	--------------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いでかつ歩道も自転車の往来が激しいため、通常は施錠している。昼間の状況により少しずつではあるが、鍵は掛けない取り組みに向けて努力している。出来るだけ自立した生活を支えるため、トイレ誘導へのこまめな声かけと、トイレでの排泄を基本としたケアに取り組んでいる。ホーム内に閉じこもることのないよう隣接の公園をさらに活用したり、民生委員の協力をえながら地域の公民館行事へも積極的に参加していきたいと考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ・前回の改善課題である玄関の施錠は、玄関横の事務所に職員が常駐している場合に限り施錠しない対応で取り組みつつある。献立の選択についても日曜日の昼食時は、利用者の希望を聞きながら工夫している。徐々に前向きに取り組む努力をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  ・リーダーを中心に職員全員で取組まれた。作業時間はかかったが、振り返りの良い機会として活用された。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)  ・参加メンバーは、年間を通じて固定化されており、今後具体的な意見等が出され、より活発な会議になることが期待される。市からも同一福祉担当者が常時参加しており、家族や現場からの声を積極的に聞きながら有効に活用されることが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)  ・家族等の意見反映の機会として、意見箱や運営推進委員会が十分活用されているとはいいがたい。家族の立場に立った説明がより必要と思われる。家族の意見が出しやすいよう、丁寧でわかりやすい説明が求められる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)  ・地域の自治会に加入している。公民館行事への案内はあるものの、これまでは少数の参加にとどまっている。今後自治会の行事も含め老人会にも積極的に参加していくとともに、利用者の希望を聞きながら外食の機会も増やしていきたいと職員間で検討している。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・利用者や家族の視点に立ったケアの実践に心がけた。ホーム内を主とした生活での理念であり実践である。現在、地域の中でその人らしく暮らし続けるための利用者の状況にあった理念を検討している。		・現在、地域の中でその人らしく暮らし続けるための利用者の状況にあった理念を検討している。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・手をかけすぎず見守りを重視し、利用者の視点にたった取り組みを職員全員で実践している。毎日の申し送りノート、毎月のスタッフ会議で意見交換を重ねながら共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入している。地域の公民館行事への誘いはあるが、これまでは少数の参加に終わっている。民生委員から声がかかり踊りの発表会に利用者が参加している。		・今後は、公民館行事に積極的に参加していくとともに、ホームと親密な関係を深めるような交流にもつなげることが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・前回の改善点である施錠については、玄関横の事務所に職員がいる場合施錠しない対応で少しずつ取り組みつつある。日曜日の昼食時は、利用者の希望に添った献立に変えてみる工夫をしている。今回の自己評価についても全員で取り組むことで、意識の確認につながった。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・民生委員・市福祉担当者・他グループホーム管理者・家族等、市の意向により出席者は固定化されている。今回の評価で行われる家族へのアンケート内容を、市でも参考にし、今後の取り組みに活かす考えである。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市福祉担当者は、運営推進会議にも定例出席し、事業所からも質問、意見が出しやすい双方向の関係性ができている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎月「フレーゲ便り」と併せ金銭出納記録、介護計画を送付している。健康面に関しては随時電話で連絡している。</p>		<p>・職員の異動、あるいは馴染みの職員の名前を家族に伝える配慮が望まれる。家族との信頼関係の向上にもつながると思われる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・意見箱を設置しているが、意見は無く、運営推進委員会でも、これまで家族からの意見は出ていない。</p>		<p>・家族から意見が出しやすい雰囲気作りに向けた内部検討が望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・今年1月から5月にかけて徐々に配置換えを行った。利用者への影響をできるだけ抑えつつ体制も整えられた。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人主催で毎年全員参加の研修を行っている。日々の実地研修はリーダーが担当している。外部研修参加の結果は、報告書により職員全員で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡会の管理者交流会は、3ヶ月に1回開催される。職員同士の交流会では、事例に基づいた意見交換が行われている。外部講演会には多数の職員が参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホームに馴染んでいただく機会として、5日間の食事代のみの負担で体験入居を実施している。利用者によっては自宅に訪問し、説明や相談をしている。家族の要望も受け入れつつ利用者の気持ちに配慮した対応に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、共に生活する家族に近い存在でもあることから、特に言葉遣いは押しつけにならないよう配慮している。利用者から昔の数え歌や、料理方法を教えてもらうこともあり、互いに支えあいながら一緒に過ごしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・一人ひとりに、些細なことでもその都度問いかけ、理解に努めている。意向が把握し難い人には、普段の表情から汲み取ったり、個別に向き合う時間を取るなどの対応に努めている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・家族の意向を聞きながら、利用者の日常的な行動や状態を丁寧に観察しつつ、利用者主体の計画となるよう作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・定期的な見直しとともに、少しの状態の変化があれば、全職員で検討し、その都度計画を見直し、家族にも報告同意を得ている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・利用者と家族が安心して暮らし続けるために必要な支援を目指しつつ、家族の協力も得ながら事業所として提供する努力をしている。</p>		<p>・利用者の特別な外出・外泊の支援や移送サービスは積極的に行っている。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・利用者や家族の希望により、耳鼻科・神経科等かかりつけ医との継続的な診療を続けている。また、協力医院をかかりつけ医とする場合には本人と家族の同意書により納得を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・通常は訪問看護を利用し、看護師の常駐はない。本人、家族からの確認書により、利用者が重度化した場合、24時間連携の医師の指示を受けながら対応することになっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・利用者の誇りやプライバシーに関する研修や事例研究を常に行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・基本的な時間枠はあるが、利用者のペースに出来るだけ合わせる工夫をしている。開始時間はあつても、その後のペースは利用者の希望に添っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食事前後のテーブル拭きや惣菜の盛り付け、後片付け等できる人は職員と一緒に賑やかにやっている。食事は職員と同じテーブルで同じ物を摂っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・入浴は体調管理の気配りをしながら、利用者のペースでゆっくり行われているが入浴時間の制約はある。</p>		<p>・利用者の個別の入浴希望にあわせ、職員のローテーションを組む努力に期待したい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの生活歴を活かし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。</p>		<p>・利用者は、室内で出来るちぎり絵やフラワーアレンジメント等の他に、中学生のトライやるウィーク、関学OBのコーラスグループのボランティアの受け入れなども楽しみにしている。</p>
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・事業所の近くには、公園が二箇所あり玄関前にも広いスペースがある。時間をかけずに外気浴が出来る環境である。また、車でのドライブや買い物の支援も行っている。</p>		<p>・外食や文化ホールのイベント参加など五感を刺激し開放感を味わえる外出の機会を増やす取り組みにさらに期待したい。</p>
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・事業所の前面は幹線道路であり、交通量が多く安全を考え玄関は施錠している。</p>		<p>・外に自由に出られない暮らしや、利用者の閉塞感の認識を持っておられるが、鍵を掛けない大切さの認識を全職員が持って、さらなる検討を期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・消防署が前にあり、災害時の安心は得られている。利用者参加の訓練も行っているが、近隣の人々への助力の働きかけが十分ではない。</p>		<p>・運営推進会議等で地域とのつながりを強め、地域の人々が災害時の応援に参加してもらえるよう働きかけを行って欲しい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・利用者一人ひとりの必要な食事や水分が取れるよう支援している。特に水分については、排尿量が少ない人をチェックして水分補給に気を配り、食事が進まない人は医師の指示で栄養剤を投与している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・全体にゆったりとした広さで、居間や廊下にベンチが置かれ利用者は自由にくつろげている。隣の公園の緑も居室から望まれ季節感に恵まれている。</p>		<p>・三階にある畳敷きの広いコーナーは、床が高く活かされていない。利用に工夫が望まれる。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室の壁を手作り刺繍の壁掛けで美しく飾り、ベッドカバー、マット、カーテンの色を統一してセンスよく住んでおられる利用者がある。家具は個々の好みのものを持ち込まれている。</p>		

 は、重点項目。